

整形外科専門医テキスト

長野 昭, 松下 隆, 戸山芳昭, 安田和則, 石黒直樹 ● 編集

〔評者〕菊地臣一(福島県立医科大学理事長兼学長/整形外科)

今という時代、医療は未曾有の激動期のなかにある。そのなかで、われわれ医療人は、professionalismの発揮と、第三者にも理解・納得できる医療内容の説明責任を問われている。これら二つのことは、「医療の標準化による質の保証」という言葉でまとめることができる。患者や国民のこうした要望の背景に、国家財政の危機とともに、医療への不信感が存在していることにわれわれは留意しておく必要がある。

IT化は、手術実施率に地域差が存在し、その背景に科学的根拠の薄弱な適応や高額な画像機器の配置があることを立証した。同時に、医療がすべて科学的に立証された内容から構成されているわけではないことも明らかにされている。もっと言えば、将来、医療のすべてが、科学的立証が可能かどうかさえ疑問視されているのが現状である。

このような時代背景のもと、われわれ整形外科医に求められるのは、professionalismの発揮と、医の professionalismの責務(医療の質・安全学会誌2:220-222, 2007)の履行である。もう一つは、根拠のある医療の実践である。た

だ、それだけでは不十分で、経験知(art)の深さも求められているのである。自分の行っている医療は、エビデンスに対応しているのか、対応していないならそれはどこで、なぜかという思考作業が要求される。このような研鑽を通して、整形外科医は、整形外科専門医試験に通ることで、プロとして最低限の技倆の保持を証明しなければならない。

このような時代背景の下、本書は、EBMと整形外科専門医試験を意識して編集されたわが国で初めての成書である。そして、本書は、試験前の整形外科専門医のみならず、さらなる知識向上と維持にも有用であるように構成されている。多数の執筆者による成書は、とかく内容の質と概念に統一がなく、メッセージが散漫になりがちである。そういう点で、本書は、二つの理念を前提として編集されているので、統一感のある内容になっている。

本書のもう一つの特徴は、医療倫理、安全医療、医療制度などという章が最後に独立して設けられていることである。わが国の卒前教育にこの面での対応が不十分であること、そして前述したように、



医療人に、国民にわかるような説明と開示が求められている今、時宜を得た構成になっている。

それにしても、本書をみると、現代の整形外科医が求められている水準の高さと守備範囲の広さに圧倒されてしまう。と同時に、自分の至らなさを痛感する。24,000円+税という定価は安くはない。しかし、本書の二つの理念とそれに基づいた編集は、それだけの価値がある。

B5 頁1,012 2010年
定価25,200円(本体24,000円+税)
南江堂 刊